

# 1.活動の背景と目的

## (1)研究の背景

将来の予測が難しいこれからの社会を生きていくには、自らの未来を創り出していくために必要な資質・能力を育むことが求められている。文部科学省での次期学習指導要領検討においても、そうした資質・能力の育成と、そのための学び方の改革として協働学習などの子ども主体の学びが必要とされている。

しかし、協働学習については、「なかなか全員が参加する活動にならない」「必ずしも思考が深まらない」などの課題も多く、子ども自身がどのように取り組み、思考を深めていくかという方法については、研究の途上であると言える。

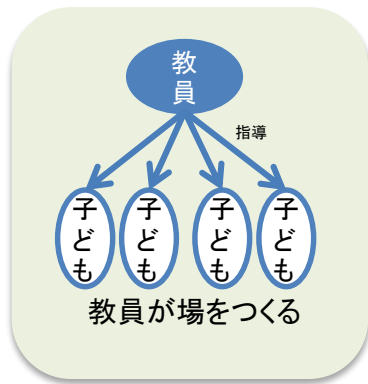
## (2)研究の目的

今回の研究では、「協働学習」に着目し、以下の2点を実現することを目指す。

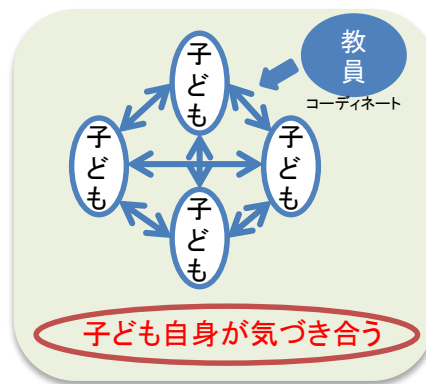
### ①協働により個の思考を深めるモデルづくり

協働学習において、より他者の知恵や意見を吸収して、子ども自身が自らの思考の枠組みや学びを広げ、思考を深めていく力を育むための学びのモデルを開発する。

【教員による一斉指導型の学び】



【子ども中心のコミュニティベースの学び】



### ②思考力の評価ツールの開発と効果検証の実施

上記の学びのモデルを行うことで、

子どもたちが

- ・多様な意見を吟味し、取り入れることで思考力(批判的思考力の要素)が向上すること
  - ・自ら学びを創りだしていく学習観・やり方を身につけること
- が期待される。

上記のような、思考の深まりや意識・態度の向上を検証するための評価ツールも併せて開発し、この学習モデルに基づく授業実践の効果を検証する。